

御文粗拜見仕り候ひ了んぬ。御状に云はく、常忍の云はく、記の九に云はく「稟権ほんごん出界名為虚出しゅつかいみょうい こしゅつ」云云。了性房の云はく、全く以て其の釈無しと云云。記の九寿量品のに云はく「無有虚出より昔虚為実故に至るまでは為の字、権を稟けて界を出づるを名づけて虚出と為す。三乗は皆三界を出でずといふこと無し。人天は三途を出でんが為ならずといふこと無し。並びに名づけて虚と為す」云云。文句の九に云はく「虚より出でて而も実に入らざる者有ること無し。故に知んぬ、昔の虚は実の為為の故なり」云云。寿量品に云く「諸の善男子、如来諸の衆生の小法ねが とくはつくじゅうを樂ぶ徳薄垢重いしよじゅうの者を見て、乃至以諸衆生、乃至み ぞうざんばい未曾暫廢」云云。此の經の文を承けて天台・妙樂は釈せしなり。此の經文は、初成道の華嚴の別円、乃至法華經の迹門十四品を、或は小法と云ひ、或は徳薄垢重、或は虚出等と説ける經文なり。若し然らば華嚴經の華嚴宗、深密經の法相宗、般若經の三論宗、大日經の真言宗、觀經の淨土宗、楞伽經の禪宗等の諸經の諸宗は、依經の如く其の經を讀誦すとも三界を出でず三途を出でざる者なり。何に況んや或は彼を實と稱し或は勝る等云云。此の人々天に向かつて唾を吐き地をつば剛つかんで忿りを為す者か。此の法門に於て如来滅後月氏一千五百余年、付法藏の二十四人、竜樹・天親等は知って未だ此を顯はさず。漢土一千余年の余人も未だ之を知らず。但天台・妙樂等ほぼ粗の之を演ぶ。然りと雖も未だ其の實義を顯はさざるか。伝教大師以て是くの如し。今日蓮粗之を勸ふるに、法華經の此の文を重ねて涅槃經に演べて云はく「若し三法に於て異の想を修する者は、当に知るべし、是の輩やからは清淨さんきの三歸則ち依え処しよ無く、所有きんかいの禁戒皆具足せず。終ついに声聞・縁覺、菩薩の果を証すること能はず」等云云。此の經文は正しく法華經の寿量品を顯説せるなり。寿量品は木に譬へ、爾前迹門をば影に譬ふるの文なり。經文に又之有り。五時八教・当分とうぶん か せつ跨節・大小の益は影の如く、本門の法門は木の如しと云云。又寿量品已前の在世の益は闇中の木影なり。過去に寿量品を聞きし者の事なり等云云。

又不信は謗法に非ずと申す事。又云はく、不信の者地獄に墮おちずと云云。五の巻に云はく「疑ひを生じて信ぜざらん者は則ちまさ當おに惡道に墮つべし」云云。

総じて御心へ候へ。法華經と爾前と引き向けて勝劣浅深を判ずるに、当分とうぶん か せつ跨節の事に三つの様有り。日蓮が法門は第三の法門なり。世間に粗夢ほぼの如く一・二をば申せども、第三をば申さず候。第三の法門は天台・妙樂・伝教も粗之を示せども未だ事お了へず。所

詮末法の今に譲り与へしなり。五五百歳とは是なり。但し此の法門の御論談は余は承らず候。彼は広学多聞たもんの者なり。はゞかりはゞかり憚みたみた見と候ひしかば、此の方のまけ負なんども申しつけられなばいかんがし候べき。但し彼の法師等が彼の釈を知り候はぬは、さてをき候ひぬ。六十巻無になしなど申すは天のせめなり。謗法の科とがの法華經の御使ひに値ひて顯はれ候なり。

又此の沙汰の事も定めてゆへありて出来せり。かじまの賀鳥大田次郎兵衛・大進房、又本院主ほんいんじゅもいかにとや申すぞ。よくよくきかせ給ひ候へ。此等は經文に子細ある事なり。法華經の行者をば第六天の魔王の必ず障さふべきにて候。十境の中の魔境とは此なり。魔の習ひは善を障さへて悪を造らしむるをば悦ぶ事に候。強ひて悪を造らざる者をば力及ばずして善を造らしむ。又二乗の行をなす物をばあながちに怨あだをなして善をすゝむるなり。又菩薩の行をなす物をば遮さえぎりて二乗の行をすゝむ。最後に純円の行を一向になす者をば兼別等に墮おとすなり。止觀の八等を御らむあるべし。

又彼が云く、止觀の行者は持戒等云云。文句の九には初・二・三の行者の持戒をば此をせいす。經文又分明ふんみょうなり。止觀に相違の事は妙樂の問答に之有り、記の九を見るべし。初随喜しよずいきに二有り。利根りこんの行者は持戒を兼ねたり。鈍根どんこんは持戒之を誓止す。又正像末の不同もあり。攝受折伏しようじゆの異なりあり。伝教大師の市の虎の事思ひ合はずべし。此より後は下総にては御法門候べからず。了性・思念詰をつめつる上は他人と御論候わば、かへりてあさくなりなん。

彼の了性と思念とは年来日蓮をそしるとうけ給はる。彼等程の蚊虻もんもうちゅうの者が日蓮程の師子王を聞かず見ずして、うはのそらにそしる程のをこじん鳴呼人なり。天台法華宗の者ならば、我は南無妙法蓮華經と唱へて、念仏なんど申す者をば、あれはざる事なんど申すだにも奇きくわいなるべきに、其の義なき上 偶たまたま申す人をそしるでう、あらふしぎあらふしぎ。大進房が事先さき先さき書かきつかわして候やうに、つよづよとかき上げ申させ給ひ候へ。

大進房には十羅刹らせつのつかせ給ひて引きかへしせさせ給ふとをばへ候ぞ。又魔王の使者なんどがつきて候ひけるが、はなれて候とをばへ候ぞ。悪鬼入あつきにゆうごしん其身はよもそら事にては候はじ。事々重く候へども此の使ひいそぎ候へばよるかきて候ぞ。恐々謹言。

十月一日

日 蓮 花 押